

授業評価 2015 (前期) T1P: 工学部デザイン学科

syll mkjhytex.pl Ver 2.79(2015-09-11) by Yas

2015 年度前期 工学部デザイン学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1P002001	図学演習	1 年前期月曜 3 限	今泉 博子	T1P 1
T1P004001	デザイン造形実習 I	1 年前期水曜 4,5 限	田内 隆利他	T1P 2
T1P005001	デザイン論 I	1 年前期火曜 3 限	植田 憲他	T1P 3
T1P013001	形の工学	2 年前期水曜 1 限	久保 光徳	T1P 4
T1P016001	環境デザイン I	2 年前期金曜 4 限後半 / 2 年前期金曜 5 限	(中西 利恵) 他	T1P 6
T1P018001	デザイン科学演習 I	2 年前期月曜 1 限後半 / 2 年前期月曜 2 限	岩永 光一他	T1P 7
T1P037001	環境人間工学	3 年前期水曜 2 限	下村 義弘	T1P 8
T1P039001	デザイン文化計画演習	3 年前期木曜 1 限後半 / 3 年前期木曜 2 限	植田 憲	T1P 9
T1P048001	材料計画演習	4 年前期木曜 4 限後半 / 4 年前期木曜 5 限	寺内 文雄	T1P 10
T1P049001	人間工学演習	4 年前期火曜 3 限 / 4 年前期火曜 4 限前半	岩永 光一他	T1P 11

授業科目名	: 図学演習
担当教員	: 今泉 博子
年次・開講時限	: 1 年前期月曜 3 限
授業コード	: T1P002001
授業アンケート	: 回答者数 59 人 / 受講者数 75 人 (回収率 79%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 59 件)

昨年度のアンケートでは授業外での学習時間が少なかったため、今年度は毎回宿題を出すよう工夫しました。準備学習・復習にある程度の時間を割いており、効果的だったことがわかりました。しかし、やはり宿題をやってこず、結果的に追試を受けることになっている学生もいました。宿題は本人のため、ということが本当の意味で理解できないのは、まだまだ子どもらしい1年生の特徴です。どのように強制力を働かせるか、来年度の課題にしたいと思います。

Q29. この授業で良かった点について記入してください。 (回答 4 件)

「手を動かしながらの授業で、理解しやすかった」「宿題が多く、勉強になった」との回答があり、授業の意図が伝わっているようで良かったです。昨年度、初めて1人で授業を受け持ち不慣れだったこともあり、あまり上手く講義できなかったので、「説明が分かりやすくてよかった」というコメントで非常に救われました。来年度もさらに良い授業にするため、テストで理解度の低かった部分をより丁寧に教えたいと思います。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。 (回答 1 件)

「初回授業では後ろにもスクリーンがあったのに、2回目からなくなったので、ずっとやってほしい」との意見がありました。初回にこのような工夫を試してみたものの、あまり見ている人がいない印象だったので2回目以降無くしてしまったのですが、独自に行った授業後アンケートでも好評だったので、来年度から復活させたいと思います。引き続き、Moodle へのスライドデータアップだけでなく、授業中にスライドが見やすい状況作りにも気をつけたいと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

今年度新たに工夫した点が良い影響を与えていたということがわかるアンケート結果でした。一方、理解度の向上には大いに余地があると感じます。テスト結果を分析し、特に理解度の低かった部分について、来年度はスライド・練習問題の構成等を重点的に改善していきたいと思います。

3. その他のコメントや連絡事項

今年度は言ったことに対して素直に取り組む学生が多い印象で、授業がしやすかったです。図学にちなみ、正投影図、副投影図の描かれたオリジナル T シャツを着て授業に臨みましたが、それに対する反応が大変好評で、それも影響していたのかな? と思いました。どんな方法であっても学生とコミュニケーションをとろうという意志を見せることが大事なのだな、と新たに気づかされました。

また、今回初めて学生に不可をつけましたが、非常につらく、教員にとってもダメージが大きいものだと感じました。来年度はそうした学生が出ないように気をつけて授業をしていきたいと思えます。

作成(者): 今泉 博子

授業科目名	: デザイン造形実習 I
担当教員	: 田内 隆利, 清原 明生
年次・開講時限	: 1 年前期水曜 4,5 限
授業コード	: T1P004001
授業アンケート	: 回答者数 53 人 / 受講者数 73 人 (回収率 73%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 51 件)

受講生の多い授業の中では比較的に見やすかったようだが, 教室の性質上, 後ろの席ではどうしても黒板の文字が見えないことがある。プロジェクタなどを活用してできるだけ後ろの席でも不具合の内容に工夫したい。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 53 件)

多くの学生が積極的に質問して能動的に授業に関わっていたことが伺える。

Q16. 全体を通して, この授業に満足しましたか? (回答 51 件)

回答は 4.82 と, 大人数で行う授業としては満足できる結果である。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業は教員が一方向的に教えるものではなく, 学生と一緒に作っていくものだと思う。そういう意味では質問も多く出て学生が積極的に関わっていった今回の授業は概ね成功と言えるだろう。特に最終課題は良い作品が非常に多く, 教員側も気持ちが良い授業ができた。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 田内隆利

授業科目名	: デザイン論 I
担当教員	: 植田 憲, 寺内 文雄, 樋口 孝之
年次・開講時限	: 1 年前期火曜 3 限
授業コード	: T1P005001
授業アンケート	: 回答者数 58 人 / 受講者数 86 人 (回収率 67%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 57 件)

Moodle を活用し、授業で使用する資料を渡したり、レポートを提出させた。また、授業によっては、小テストを課して理解度を把握しつつ進めた。これらが、授業への関心や理解を深めるものと推察される。今後も、より資料の充実に力を入れたい。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 57 件)

本授業に関しては、準備学習・復習にかかる時間がきわめて少ない。授業中に紹介した文献などを熟読することで、デザインに関する知識を増やし理解を深めることが可能と思われる。今後は、準備学習・復習を踏まえより効果的になるよう、授業の進め方を工夫したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

デザインとは、ものづくりの技術のみならず、より豊かな生活を構想するための思考が重要である。その思考をより十全なものにするためには、デザインが成立し展開してきた過程を知る必要がある。その意味では、本授業はきわめて重要な位置付けにあり、今後も、これらの視点を堅持しながら、より履修者が関心のもてる授業を組み立てていきたい。

3. その他のコメントや連絡事項

「デザイン論 1」は、デザイン学科のなかでも数少ない講義科目のひとつである。学生の間では実習・演習科目を重視し講義科目を軽視する傾向があるように思われるが、より幅広い見地からデザインを理解してもらうためにはきわめて重要な科目であると自負している。今後にあっても、授業資料を充実させたり、時節に応じた話題を取り入れるなどし、より分かりやすく関心が持てる授業となるよう工夫していきたい。

作成 (者): 植田 憲

授業科目名	: 形の工学
担当教員	: 久保 光徳
年次・開講時限	: 2 年前期水曜 1 限
授業コード	: T1P013001
授業アンケート	: 回答者数 13 人 / 受講者数 49 人 (回収率 27%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 13 件)

8 名が「はい」、4 名が「やや」、1 名が「あまり」との回答を受け、実際に授業を進めていた時の印象と一致していると感じている。今年は試行的に講義内容の専門性を上げた。これまでは「デザイン」に合わせることを重視していたが、やはりそれでは自分が伝えるべきと考えるポイントの伝達ができないため、今年は「デザイン工学」および「設計工学」の視点での授業内容へのシフトを図った。回答率が低いので確証は得られていないのだが、来年度もこの考え方で授業を進めてみたいと思う。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 13 件)

2 名が「はい」、7 名が「やや」、3 名が「どちらとも」、1 名が「あまり」との回答を受け、上記の満足度との若干のズレが気になるところである。確かに授業の難易度は上げたのだが、理解度を下げないように様々な工夫は試みている。しかしながら、この回答結果では、まだまだひとりよがりな工夫であることがわかる。さらに自主教材の改善・開発を進める予定である。

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 13 件)

これに関しては毎回高評価である。レーザ加工機、3Dプリンタなどとの同居の部屋であり、音響状況も悪く、必ずしも良い環境は言えないのであるが、部屋全体の雰囲気、学生間の位置関係、教員との位置関係に何らかの良い点があるように思える。確かに、この部屋での授業に慣れていると、一般教室の雰囲気がいかにも無機的であることを痛感する。手前味噌ながら、この部屋の雰囲気に何かの教育環境への示唆が含まれているのかもしれない。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

回答してくれた 13 名以上に今年を受講生は記憶に残る学生が多かった。確かに、毎年のことながら、漫然と参加しているだけの受講生が皆無とはいいがたい状況ではあったが、毎週早朝の暑苦しさを伴った“真剣”な授業に最後まで付き合ってくれて、こちらの大切にしているポイントを、曲解することなく受け止めてくれたような反応示す受講生が例年以上に見受けられたことは、実は嬉しく感じている。ただ、やはり『わかりづらい』ということも再認識させられた。デザイン領域にかぎらず、人が生きる上で接する形を有するものの全てにかかる基礎原理的な話の一つなので、『わからない』を『わからないけど、おもしろい』に変化させ、最後に『おもしろい。他者に伝えたい』となるまで、工夫を続けたいと思う。

3. その他のコメントや連絡事項

授業内容の難易度については、今回もやはり強く感じたのだが、難易度のハードルを上げれば上げただけ、学生はついてくるということである。同時に、それを下げると、下げただけの理解および気付きしか得られないということも事実のようである。なんと素直なことだろうか、なんと可能性を秘めていることだろうか。来年度も、気持ち、学生の顔を伺いながら、このハードルの高さを自分が教えられることの限界にまで持っていく努力をしてみようと画策している。来年がまた楽しみである。

作成(者): 久保光徳

授業科目名	: 環境デザイン I
担当教員	: 中西 利恵, 佐藤 公信, 今泉 博子, 畑 豊道
年次・開講時限	: 2 年前期金曜 4 限後半 / 2 年前期金曜 5 限
授業コード	: T1P016001
授業アンケート	: 回答者数 12 人 / 受講者数 38 人 (回収率 32%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 3 件)

模型の作り方に関しては、解説映像も用意していたのですが、流す時間がありませんでした。また、プレゼンテーションに活かせる模型写真の撮り方のポイントも説明したかったので、これらの点については改善するようにしたいと思います。

課題が壁面に掲示しにくかった点については、人数によっては講義室の変更も考慮して改善したいと考えます。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

今年度から環境デザイン II の内容も取り入れて行ったため、密度が高くなっている。課題の連携や難易度に関しては、今年度の状況を勘案して改善をしていく予定である。

3. その他のコメントや連絡事項

総じて、履修学生の課題に対する取り組み、授業全体の雰囲気は良かったと思われる。一方で、個別の相談の際の待ち時間を有効にできる方法を考えたいところである。例：模型の作り方、撮影方法に関する解説映像を流すなど。

作成(者): 佐藤

授業科目名	: デザイン科学演習 I
担当教員	: 岩永 光一, 石橋 圭太, 久保 光徳, 寺内 文雄, UEDA EDILSON SHINDI, 下村 義弘, 日比野 治雄, 小山 慎一
年次・開講時限	: 2 年前期月曜 1 限後半 / 2 年前期月曜 2 限
授業コード	: T1P018001
授業アンケート	: 回答者数 32 人 / 受講者数 82 人 (回収率 39%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 31 件)

おおむね満足できる演習内容だったようですので、今までの内容を基本的に維持しつつ、一層興味のもてる魅力ある演習にしていきたいと思えます。

Q23. 班の構成メンバーで実験を適切に分担できていましたか? (回答 16 件)

班ごとに実習を行う場合には、参加の度合いも評価も公平になるように今後も努めます。

Q25. 実験・演習施設及び実験器具などは整備されていましたか? (回答 16 件)

温度の調整については、こまめに確認しながら適度な温度を維持したいと思えます。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

この演習は学習内容が多く進度も速いため、予習、レポートの作成、集中力の維持などが大変だと思えますが、内容が充実しており満足度が高いとも言えるようです。今後も新しい内容を取り入れながら内容のさらなる充実を目指したいと思えます。

3. その他のコメントや連絡事項

来年度以降も受講者の声を今後の授業に生かすように努めたいと思えます。そのためには皆さんからのフィードバックがとても重要になりますので、このアンケートにも積極的に回答してください。今回の回答率 39% はやや低かったと思えます。

作成(者): 小山慎一

授業科目名	: 環境人間工学
担当教員	: 下村 義弘
年次・開講時限	: 3 年前期水曜 2 限
授業コード	: T1P037001
授業アンケート	: 回答者数 20 人 / 受講者数 69 人 (回収率 29%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 19 件)

本授業では基本的にできるだけ講義時間中に理解できるように心がけており、時間外の予習と復習は学生各自に任せております。しかしアンケート結果ではあまり時間外学習が積極的ではなさそうですので、予習や復習の指示をできるだけ出したいと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

全体を通して概観すると、学生と教員間の相互のやり取りがもっとあった方が、充実した授業になるかもしれないと思います。この点について、工夫・改善していきたいと考えています。

3. その他のコメントや連絡事項

ものの作り手側は、使い手を知る必要があります。知るための手段として科学的方法があると考え、例えば「デザイナーが想定した通りにユーザが使ってくれない…」「デザイナーが思っているほどユーザが快適とってくれない…」といった様々な問題点に具体的・科学的にアプローチできるようになります。

作成(者): 下村義弘

授業科目名	: デザイン文化計画演習
担当教員	: 植田 憲
年次・開講時限	: 3 年前期木曜 1 限後半 / 3 年前期木曜 2 限
授業コード	: T1P039001
授業アンケート	: 回答者数 1 人 / 受講者数 6 人 (回収率 17%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q1. この講義のシラバスについて、該当するものを全て選択して下さい。(回答 1 件)

本演習は、履修生を学外へと連れ出し、学内では知り得ない生活の諸相を体験することを目指している。それゆえに、シラバス通りにものが進まず学生への不満へとつながったものと思われる。今後はより慎重に計画・実行するよう心掛けたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

デザインとは、ものづくりの技術のみならず、より豊かな生活を構想するための思考が重要である。その思考をより十全なものにするためには、デザインが必要とされる生活そのものを知る必要がある。その意味では、本授業はきわめて重要な位置付けにある。今後も、これらの視点を堅持しながら、より履修者が関心のもてる授業を組み立てていきたい。

3. その他のコメントや連絡事項

本授業は、学外の生活現場やその形成に資するものづくり・ことづくりを、受講者が体験を通して学ぶ機会を設定している。五感を研ぎ澄まして多様な資源に対峙しそれらを発見する経験を、是非多くの学生諸君にしてほしい。

作成(者): 植田 憲

授業科目名	: 材料計画演習
担当教員	: 寺内 文雄
年次・開講時限	: 4 年前期木曜 4 限後半 / 4 年前期木曜 5 限
授業コード	: T1P048001
授業アンケート	: 回答者数 9 人 / 受講者数 27 人 (回収率 33%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 9 件)

本授業のこの設問に対する受講者からの評価平均点は、4.11 でした。「はい」「ややそういえる」という回答が最多で、「いいえ」は 0 件でした。多くの学生が積極的に質問して能動的に授業に関わっていたことが伺えます。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 9 件)

本授業のこの設問に対する受講者からの評価平均点は、4.56 でした。「はい」という回答が最多で、「いいえ」は 0 件でした。今回の授業でも多くの例題、話やわかりやすいサンプル等を利用しました。今後とも理解しやすい方法で授業をしていきたいと思ひます。

本授業のこの設問に対する受講生からの評価平均点は、4.56 でした。「はい」「ややそういえる」という回答が最多で、「いいえ」は 0 件でした。この授業の内容は、満足できる演習内容だったようです。基本的に現状を維持しながら、一層興味のもてる魅力ある授業にしていきたいと思ひます。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業でなされた提案から、ほぼ全員が意欲を持って課題に取り組んでいたことが伺えます。本授業科目は、大別すると 2 種類の課題で構成されています。いずれの課題においてもチームのメンバーと協力して努力したように感じました。

3. その他のコメントや連絡事項

授業の課題に対しては、私たち教員の想像以上に頑張ってくれたと感じています。授業課題だけでなく、卒業研究においてもお互いに協力し合って進めていただけたらと思ひています。

作成(者): 寺内文雄

授業科目名	: 人間工学演習
担当教員	: 岩永 光一, 下村 義弘, 石橋 圭太
年次・開講時限	: 4 年前期火曜 3 限 / 4 年前期火曜 4 限前半
授業コード	: T1P049001
授業アンケート	: 回答者数 5 人 / 受講者数 10 人 (回収率 50%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 5 件)

本授業のこの設問で、「ややそういえる」という回答が最多ですが「はい」は 0 件でした。

大学における授業は難しく当たり前であり、おおよそ理解できたと思える程度がちょうど良いのかもしれませんが、ただ、自身を持って「はい」と言えるように、今後は質問対応なども充実していきたいと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

ヒトを知ることは、他者のためにデザインをする上で必要不可欠です。その知るための方法として実験や文献参照がありますが、これらについて実践的に学ぶ必要があると思います。本授業でたくさん失敗をして、自身の卒業研究が実りあるものになるように、担当教員は応援しております。

作成(者): 下村義弘